

兎を飼つた經驗

目白幼稚園 和田 實

養殖業としての兎の飼ひ方は知りませんが、幼兒の觀察材料として、幼稚園内に飼養して見たいと云ふ考へから、今迄に數度飼つて見たことがありましたが、中々色々の困難があるものであります。今都合のよかつたこと、惡かつたこと、思ひ出すまゝに書いて見ませう。田舎で經驗のある方には、何でもない話ですが都會地にお住ひの方には多少の御參考となるかと思ひます。

善かつたこと。兎を幼稚園内に飼養して置くことの保育上に都合よいことは、小鳥や、駒鼠などよりも、遙に幼兒の相手になると云ふことです。

兎は非常に貪食のもので、然も雜食性（尤も肉類

や虫類を食べませんが）のものですから、草の葉木の葉、木の若芽、野菜類など悦んで食べるのでいつでも、子供の差し出すものを見る間に食べます。従つて、子供は暇ある毎に餌を與へては其食べる様子を眺めて悦んで居ります。時々、箱の中から出して、庭に離しなどと尙更面白く觀察することが出來ます。庭に離すには、いきなり離さないで、廣場の真ん中に二間四方位に金網なり戸板なりで、先づざつとかこつて置いて、その中に離すか、或は幼兒を圓形にすぎ間なく圓陣を造らせて、人垣を造つて置いて是より出さぬ様にして觀察させるのです。前後の足の長さが違ふ爲め

に、犬や猫の様な平均の取れた歩るき方が出来な
いで、びよこん／＼と飛びながら歩くのが、よく
判ります。傍に来たのには、さわつて見ることも
出来るでせう。にんじんやかぶなど食べさせなが
ら、色々と観察することが出来ます。三つ口の様
子、目の赤く美しいこと、毛の柔いこと、など一
々云はずとも、子供は熱心に見てしまいます。子
兎などであつたら尙更、大變な歓迎を受けます。
誠に幼児の觀察材料としては都合よいものであり
ます。都合の悪いこと。所で、都合の悪かつた方
面を少し速く見ると、巢の中の掃除が一寸手數
を要することです。餌が充分に與へらるゝに連れ
て糞と尿の排出が盛んなので、其臭氣と其分量と
の多いのには、先づ第一に閉口するものです。私
の現在、行つて居る飼ひ方は檻を地上二尺位の所
に設けて、三方を板で圍こひ前方だけを金網で張
り下は板張りの上を更に亞鉛で張つて、少し後の

方へ勾配をつけて尿が自然に後の方へ流れる様に
して其上に金網の簀の子を置いて更に筵を敷いて
置きます。簀の子は前には竹のを用ひましたが其
方が善かつた様に思ひます。今は在り合せの都合
で金網に見ました。屋根は取りはづしの出来
る様にして置いて、掃除や出し入れは、凡べて屋
根を上げては致します。一々踏み臺に乗つて掃除
しなければならぬので、甚だ、おつくうですが、
前に度々懲りた爲めに、今は斯様にして居ます。
前に懲りた話と云ふのは一度は地面に一坪ばか
り一方を板、三方を金網張りで圍つて、金網と板
張の下、地中一尺位迄は板の上に亞鉛を張つたも
のを埋めて、外からは犬などの入れぬ様にし、中
からは多少掘つても出られぬ様にして見たことが
ありました。掃除には金網の方を開き戸にして置
いたのです。所が、一度は休み中に時々餌を遣
る時の外、然して注意もせず居ましたら、深い
／＼穴を家の椽の下の方へ掘つ行つて、とう／＼

何處へ行つたやら行方不明になつて仕舞ひました。一度は掃除口の開き戸を犬に食ひ破られて數疋の小兎を一夜の中に噛み殺されて仕舞ひました。是に懲りて今では前述の様な餌ひ方にして居ますが、是もまだ完全てはない様です。

今飼つて居るのは牝三疋の牡一疋ですが半坪ばかりの檻の中に雑居させて居る爲めに、矢鱈に交尾し、何時の間にか子兎を生み、それを皆んなで踏み散らすので子兎が育たず落ちてしまひます。

つい最近には分娩期の近づいたのを見たので、急いで別の箱に移しましたが、何う云ふものか、矢張り、生れた子は三日ばかりで育ちませんでした。

子を取るには何うしても別々にしてやる必要がある様です。そして、檻の隈に巢箱を別に置いてやる必要がある様です。掃除した糞や寝わらの様なものは、皆庭の中の片隈に穴を掘つて埋めて仕舞ひます。植木の肥料がたらに、時には花壇の下に埋めたりします。善い肥料になります。毎日曜

日に掃除することにして居ますが都合の悪い雨天などが續いた時には十日位放つて置きます。掃除を善くすれば然して臭くはありませんが掃除を怠ると臭くて大變です。凡べて、幼稚園で動物を飼養することは、幼兒の爲めには、至極結構ですが、餌料の世話と掃除とが中々厄介なものであります。今の所、餌は八百屋から野菜の屑を貰つて來て遣つたり、豆腐の殻を買つて遣つたりして居ます。

以上、貧弱な私の經驗から見ると、幼稚園で飼ふ兎は仔兎がよいと思ひます。牝ばかりの子兎を三四疋貰つて來て飼つて遣つて交尾期が來たらば養兎場へ返し、常に子兎と交換することにして、常に子兎ばかり飼ふのがよいと思ひます。山羊など飼つた人の話を聞いて見ても、矢張り、成長したものを飼ふことは、何うも、幼稚園には適さぬ様です。小鳥と子兎と雞とは幼稚園には飼つて置いて善いものと思ひます。